

草勢の異なるパプリカにおける最適な栽植密度

野菜部 生産工学チーム TEL:022-383-8122

研究の目的

パプリカは品種ごとに草勢や収量性が異なります。また、栽植密度は作業性に大きく影響を及ぼします。そこで、草勢の違いを基に、収量と作業性が最も高い栽植密度を明らかにしました。

研究成果

(1) 草勢の異なるパプリカの最適な栽植密度は以下のとおりです。

表1 草勢が異なるパプリカ(大果形品種)の最適な栽植密度(主枝本数)

草勢	特に強い	強い	弱い
最適な栽植密度	6.3～7.5本/m ²		7.5～8.5本/m ²
品種例	サッポロ	ナガノ	スペシャル

*草勢は日射量に対する茎葉乾物増加量、茎葉伸長量、カタログを基に評価した。

*草勢は5段階評価(特に強い、強い、普通、弱い、特に弱い)とした。

*最適な栽植密度は収量性、作業性、収益性、過去の知見等を総合判断した。

(2) 受光量に対する着果数の違いを調査したところ、草勢が「特に強い」サッポロは、草勢が「弱い」スペシャルに比べ、同じ受光量でも着果数が多いことが解りました(図1)。

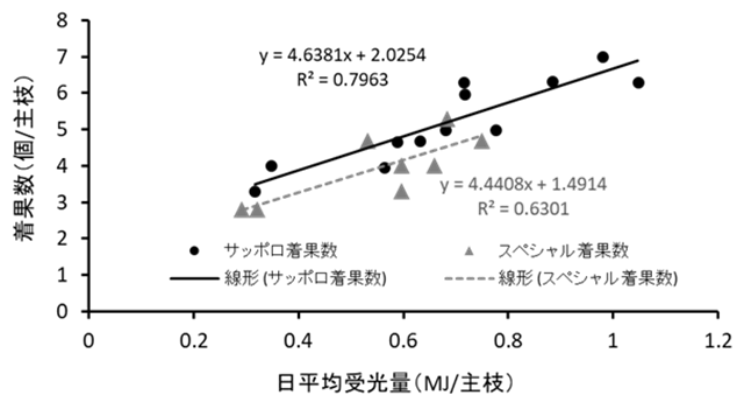


図1 サッポロとスペシャルの受光量当たりの着果数

利活用の留意点等

研究成果の背景となる試験概要は以下のとおりです。

①栽培施設：農業園芸研究所内パイプハウス(間口6.3m, 奥行12m, 軒高3.3m)

②栽培様式：やし殻を培地に用いた養液栽培(EC1.2～1.8dS/m)

主枝7.5本/m²区は主枝3本仕立て、6.4本/m²区は2本仕立て

より詳しい内容は「普及に移す技術」第95号(令和2年4月発行)
「草勢の異なるパプリカにおける最適な栽植密度」をご覧ください。
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html

